



## 新年がスタート！ 授業づくり研修会&小・中学校合同部会 研究発表会

平成28年の名古屋市社会科同好会は、研修部・研究部合同の例会でスタートします。

今年度も授業力アップ研修グループは、若手会員が地域ごとのグループに分かれ、ベテランの先生が指導者となり、一年間研修を行ってきました。研修の中で、サブリーダーの先生がグループ運営の中心となって活躍する姿が見られたり、若手会員が、互いの実践に対して活発に意見を交わし合う姿が見られたりしました。1月15日(金)に行われる授業づくり研修会には、多くの会員の皆様にご参加いただき、会を盛り上げていただきたいと思います。

そして、授業づくり研修会に引き続き、小・中学校合同部会 研究発表会が開かれます。昨年度に続き、今年度も小学校・中学校ともに研究主題を「ともに生き合う社会を目指す子どもたちの社会科学習」と設定し、子どもが主体となって追究していくことができる学習問題づくりや、子どもが追究の見通しをもったり、学習した内容を振り返ったりする場面に焦点を当て、実践を進めてきました。各研究推進グループが進めてきた実践研究の成果と課題を会員の先生方に示すとともに、小学校・中学校実践の交流の場ともなります。

ぜひ、お仲間同士誘い合ってください、目前に迫った全小社研名古屋大会に向け、社会科談議に花を咲かせていただければと思います。

### 【第256号 紙面】

授業づくり研修会・小中合同発表会広報・・・(p1)	小学校部会の活動報告・・・(p3・4)
第2回授業力アップ研修グループ全体会 ご講演	中学校部会の活動報告・・・(p4・5)
名古屋市教育委員会指導室	授業力アップ研修グループ訪問
指導主事 後藤 健之 先生・・・(p2)	・・・・・・(p6)

## 第2回授業力アップ研修グループ全体会 ご講演

「研究をまとめるにあたって」

名古屋市教育委員会指導室

指導主事 後藤 健之 先生



### 1 はじめに

新卒2年目、教研がきっかけで同好会に参加し始め、26年がたったが「社会科が楽しい」と子どもに言わせたいという思いはずっと変わらない。

### 2 疑問

～社会科の魅力って何ですか？～

社会科の本質は、「今の有り様を見直して、未来を変えてみる」「人間の生き方・思いに迫り、責任感・使命感をもつ」「人として大切なことを学ぶのが社会科であり、心を育てる」ことにあるのではないかと思う。

以前、宅配便を取り上げ実践した際に、街の運送会社を訪れ、子どもたちに人の動きを見せ、疑問を持たせた。働く人とのやりとりで仲良くなり、じかに働く人の姿を見て学ぶことができた。学校に招いたゲストティーチャーでは子どもとの距離が縮まりにくい面がある。人の生き様から学ぶよさ、人がいないと社会科の授業は成り立たないと考えるようになった。

多面的・多角的に資料を検討する中で自分の考えがついてくる。その考えは、根拠の上に立ったものであるのか確認しなければならない。子どもは考えを認められるとうれしいので、自己肯定感も高まる。それが社会科の魅力を大きく感じる場所である。

まとめるにあたって実践はぶれないように。教師がどのように教えるのかではなく、子どもが主体的・協働的にどのように学ぶか。子どもが見通しをもって、粘り強く取り組み、振り返ったとき自分の実践の中で何ができたようになったか、誰の意見を参考にしたらか言えることができればよい。主体的・協働的に学ぶことは、アクティブラーニングとつながるところがある。

～社会科へのダメ出し？～

社会科の課題・学習問題づくりの面では、良質な学習問題が設定できていないのは、教師が一方的に資料を提示したり、子どもが解決したくなるような課題として、社会事象を捉えたりすることができていないことに原因があるのではないか。

資料活用の面では、2点の比較が多いが、単純な比較では変化の大きさに気付かない。かつて、水と私たちの単元で課題をもたせるために、名古屋市の水道の水源に行き水を手に入れ、ダムと水道水を比較させようと考えた。どちらもきれいで、見た目では分からないので、水質検査キットを使ってみた。しかし、子どもの反応はいまいちだった。なかなか教師の思いは、思い通りにいかない。言語活動では、教師の一言一答が多い。教師はつなぎ役として子どもの意見を引き出すようにする。歴史では、学ぶ意味を考える授業が見られない。歴史こそ、先人の教えを学んで、現在に生かす。そして、次の世代に引き継いでいく。配付した資料を読んで、自問自答していただき実際に生かしてほしい。

### 3 指導体験記録をまとめるにあたって

育てたい子ども像に向かって計画を立て、実践しているか。子どもとともに学んでいるか。熱い思いが実践に表れているか。失敗を課題につなげているか。記述の面で、言い回しが分かりやすいか(主語・述語の関係)。ねらいと授業内容が合っているか。本文を補う資料を精選しているか。事前事後での変容が分かるか。ノートの記事や数値で分析しているか。思考の流れが見えるか。このような視点から見直し、人に読んでもらうという姿勢を大切にしてほしい。

### 4 おわりに

社会科は子どもの居場所づくりに役立つ。授業も居場所の一つであり、子どもの意見の向こう側にどのような思いがあるのか考え、みんな意見認め合って子どもたちを鍛えていく。それが、いじめ防止にも役立つ。社会科でも見ていけるという思いで日々取り組んでほしい。

# 11月小学校部会活動報告 11月27日(金) 於 中小企業振興会館

学習問題づくりと振り返り活動に重点を置いた実践の成果と課題を、各学年グループが発表しました。

## 子どもの思考の流れに基づく学習問題づくりについて

3年生 グループ	一般的なおぼとうと、「桶狭間おぼとう」の栽培方法についての資料を比較できるように提示し、違いに目を向けさせることで、作り方についての疑問を引き出し、学習問題「どのように桶狭間おぼとうを作っているのか」を設定した。
4年生 グループ	市内の交通事故と事件の発生件数の変遷を提示して、件数が減少していることに目を向けさせることで、減少した理由についての疑問を引き出し、学習問題「事故や事件を減らすためにだれがどのようなはたらきをしているのだろうか」を設定した。
5年生 グループ	日本で起こった災害について調べ、他国との災害の種類や発生件数の違いから、地震被害に着目させた。その上で、東日本大震災の被害や南海トラフ地震の想定被害について比較して、共通する心配事に目を向けさせることで、被害を最小限にするためにしていることについて疑問を引き出し、学習問題「大地震などの災害をおさえるために、どのような対策をしているのだろうか」を設定した。
6年生 グループ	戦後間もない名古屋市の様子と、東京オリンピックの様子を比較することで、短期間に大きな変化をしたことに対する疑問を引き出し、学習問題「戦後日本はどのように成長していったのだろうか」を設定した。

各学年グループの報告から、複数の事象を比較しながら、違いや変化したこと、共通点に着目させることで、学習問題につながる疑問を引き出していくことが、有効であることが明らかになった。

## 子どもが考えの深まりを自覚する振り返り活動について

3年生 グループ	毎時間の終末に「桶狭間おぼとうについてどのくらい分かったか」と問い掛けて「かなり分かった・まあ分かった・あまり分からない・まったく分からない」の4段階で振り返らせた後に、「分かったこと」「まだ分からないこと」を記述させた。
4年生 グループ	毎時間の終末に「振り返りシート」に、本時のめあてがどのくらい達成できたかを4段階で自己評価させ、「分かったこと」「考えたこと」を記述させた。
5年生 グループ	毎時間の終末に「振り返りカード」に、「分かったこと」と「考えたこと」の欄を設定し、事実認識と思考を分けて記述させた。
6年生 グループ	毎時間の学習内容を踏まえて「日本成長メーター」に「日本の成長度」を数値化して表し、その根拠を記述させた。

各学年グループの報告後の意見交換では、学習問題と異なる問い掛けをして振り返るようにした場合、『学習問題』と『振り返りのための問い』のどちらについて振り返るとよいのか混乱がある」ということが話題になった。子どもが振り返りやすく、効果的な振り返りの内容を明らかにする必要があることが確認された。

ご指導・ご助言 名古屋市社会科研究会 副委員長 正保小学校 須田 洋 先生

- 学習問題づくりについては、2学期の実践を通して一定の成果を得ることができた。その成果を、会場校へ積極的に還元したい。研究推進部の部長・副部長・推進部員の多くが、会場校の研究協力委員になっていると思うが、指導案を作成して字面で説明することに留まってほしくない。模擬授業をしたり、示範したりして、どのようにしたら子どもの問題意識を引き出して学習問題を成立させることができるのか、具体を会場校の授業者に見せて、理想的な社会科授業の流れのイメージを授業者と共有したい。来年度に向けて、3学期にもできることがあると思うので、何をしたらよいか自ら考え、行動してほしい。
- 振り返り活動については、子どもに「やらされ感」をもたせないようにしてほしい。指標を使おうが、分かったことや考えたことを記述しようが、教師が「じゃあ振り返りましょう」と言ってしまうと、子どもの思考の流れが途切れる。1時間の学習を終えて、子どもが分かったことや考えたことを『『ついつい』述べたくなる、書き表したくなる』学習の盛り上がりや、教師の投げ掛けが重要である。また、「子

子どもたちの振り返りの内容を教師がどのように活用するのか」ということをもっと意識してほしい。子どもの記述の中にある多様な疑問や考えの中で、単元で捉えさせたいことにつながりそうなものを取り上げて学習を進めていくことで、子どもが主体となって教師がねらっている目標まで到達することができるようになると思う。



## 11月小学校部会に参加して

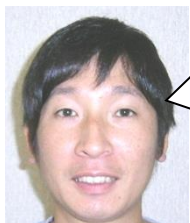
11月小学校部会に参加した先生方から寄せられた「声」を紹介させていただきます。

### ○ 東山小学校 岩田 圭司 先生



今まで、「振り返り」の活動にあまり重点を置いて実践を行っていませんでしたが、今回の実践で重点を置いたことで、子どもたちが自分自身で理解を深めていく様子が分かり、「振り返りって大事なんだな」と改めて気付かされました。今後は、振り返る内容がより充実するものとなるようにしていきたいです。

### ○ 伝馬小学校 土田 祐紀 先生



実践では、振り返りに重点を置きました。「振り返りは何のためにするのか」などかなり悩みましたが、多くの方に助けてもらい、授業をつくり上げることができました。実践を通して子どもは、学習内容の理解度や追究意欲が確実に高まりました。この経験を、他の単元や教科でも生かしていきたいと思います。

## 11月中学校部会活動報告 11月27日(金) 於 中小企業振興会館

2学期実践の成果と課題について、「学び合い」の学習活動と「社会との関わりを捉えさせる」教材化に焦点を当てた報告が各分野グループからありました。

### ○ 「学び合い」の学習活動について

#### <地理的分野グループ>

- ・ アジアの経済発展の要因や課題をキーワード化してグルーピングしたことに加え、「アジアの特色早見表」を活用して、アジア州全体の様子を視覚化したことで、アジア州の地域的特色を、筋道を立てて考えをまとめることができた。

#### <歴史的分野グループ>

- ・ 捉える段階で同じ時代について二つのグループを割り当てたことで、同じキーワードでも異なる理由付けや考えに触れることができた。また、深める段階で、全ての時代が混在するようにグループを再編成したことで、遣唐使停止に至るまでの事柄を振り返りつつ、意見発表をさせることができた。

#### <公民的分野グループ>

- ・ 自らの立場を明確にした討論を行う際、フェアトレードに関わるゲストティーチャーや弁護士など実際に社会に関わる人と生徒たちが共に解決策や問題点を話し合っていく場面を設けることで、学び合いの学習活動が活性化された。



○「社会との関わりを捉えさせる」教材化について

<地理的分野グループ>

- ・ ランチメニューの材料や身の回りの商品の生産国を調べたことで、生徒の学習課題への追究意欲が高まった。また、アジア諸国に対して否定的な見方をしている生徒が多数いたが、自分の生活とのつながりを実感させたことで、肯定的な見方に変容させることができた。

<歴史的分野グループ>

- ・ 近隣地域との関わりをテーマとしたことで、現代の国際関係から類推しつつ考えをまとめたり、外交と政治・生活との関わりを意識して記述したりさせることができ、自国の歴史において他国との関わりが不可欠なものであるということに気付かせることができた。

<公民的分野グループ>

- ・ 生徒たちにとって身近な場面や直面する問題を教材化し、資料を提示した際に抱く生徒の疑問や思いを基に、生徒たちの思考に沿った学習問題を設定することで、単元を通して生徒たちの追究意欲を持続させることができた。

その後の質疑・応答では、キーワード化して、考えを分類する活動は単元全体を通して、どのような効果があるのか、また、単元の目指すよりよい解決策とは、何をもってよりよいとするのかについてなど、各分野グループの発表に対して活発な質疑が行われました。

今年度の中学校部会がこれが最後となりました。今回議論された各分野のまとめが、1月15日（金）の小中合同部会 研究発表会で発表されます。皆さんぜひご参加いただけますようよろしくお願いいたします。



11 月中学校部会に参加して

11 月中学校部会に参加した先生方から寄せられた「声」を紹介させていただきます。

○ 富士中学校 塚田 一生 先生



これまではどのような教材を見付けようかと、どのような学習課題を設定しようかということしか考えてきませんでしたが、三分野の発表を聞いて、生徒にどのような変容を期待するのかを事前に考えて、授業を組み立てることが大切だということを学ぶことができました。  
来年度も積極的に参加したいと思います。

○ 原中学校 宇都宮 俊之 先生



各分野の実践報告をお聞きして、近年必要性が叫ばれているアクティブ・ラーニングの、一つの在り方を示すものであると感じました。学習指導要領改訂による教科書の変化で、授業時数との絶え間ない戦い(?)の日々ですが、多くの示唆を得ることができました。

## 授業力アップ研修グループの活動報告

12月1日(火)に愛知県スポーツ会館で行われた授業力アップ研修グループ全体会では、代表の先生が報告した実践を基に、若手会員が互いの実践に対して、活発に意見を交わす姿が見られました。

今後もリーダー、サブリーダーの先生方を中心に、各グループで自主的な研修活動を進め、全小社研名古屋大会に向けてさらに若手会員の力量向上を図ってほしいと思っています。

## 授業力アップ研修グループを訪ねて

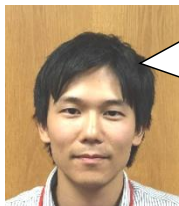
9月30日(水)に行われた小1グループの活動取材させていただきました。

【小1グループ 9月研修会の内容】 9月30日(水) 東山小学校にて

リーダー	高木 秀樹 先生	栗原 英輔 先生
サブリーダー	宇佐見 智子 先生	渋谷 保幸 先生
メンバー	駒形 早紀 先生	吉田 陵司 先生
	藤山 貴伸 先生	井上 智文 先生
	坂野 寛明 先生	市之瀬 敦則 先生
	春野 裕介 先生	朝日 裕子 先生

小1グループでは、2学期実践の方向性などについて、サブリーダーの渋谷保幸先生が司会を務め、和やかな雰囲気の中で、話し合いが行われていました。

また、リーダーの高木秀樹先生、栗原英輔先生からは、授業実践について、適切なアドバイスが行われていました。



手探り状態で行っていた実践について、多くの先輩の先生から実体験を踏まえたアドバイスをいただき、実践のよい点や問題点が明確に見えてきました。他の先生の実践を見させていただき今後の参考になることも多く、刺激を受ける会でした。(藤山 貴伸 先生)



他の学校の先生方と授業や学級経営について話ができるのが、とても勉強になります。経験不足な自分もいろいろなことを知ることができました。今後も多くのことを学んでいきたいと思います。

(駒形 早紀 先生)



## 今後の予定

1月15日(金) 授業づくり研修会 18:30~ 中小企業振興会館  
小中合同研究発表会 19:15~ 中小企業振興会館

2月5日(金) 2月全体会 18:45~ 愛知県スポーツ会館  
ご講演 名古屋市立小中学校長会社会科部会長

飯田小学校長 間瀬 亨 先生

演題 「ありがとう社会科同好会」

